

選択協議題A
地域との連携・協働による新しい高等学校づくり

兵庫県教育委員会事務局
高校教育課教育指導班(高校改革担当)
主任指導主事 中井 里絵

兵庫県における高校教育改革

平成10年度	長期構想検討委員会
平成11年度	高校教育改革第一次実施計画策定
平成12～20年度	第一次実施計画
平成18年度	長期構想検討委員会
平成19年度	高校教育改革第二次実施計画策定
平成21～25年度	第二次実施計画
平成24～25年度	長期構想検討委員会
平成26年度～	第二次実施計画継続実施
平成27年度	通学区域再編（16学区→5学区）
平成29年度	通学区域検証委員会
平成31年度	次期実施計画策定のための委員会 準備

兵庫県における高校

個性を尊重する多様で柔軟な
高校教育への転換
特色ある専門学科、普通科の
コース・類型の導入

平成10年度

長期構想検討委員会

平成11年度

高校教育改革第一次実施計画策定

平成12～20年度

第一次実施計画

平成18年度

長期構想検討委員会

平成19年度

高校教育改革第

平成21～25年度

第二次実施計画

平成24～25年度

長期構想検討委員会

平成26年度～

第二次実施計画

平成27年度

通学区域再編

平成29年度

通学区域検証委員会

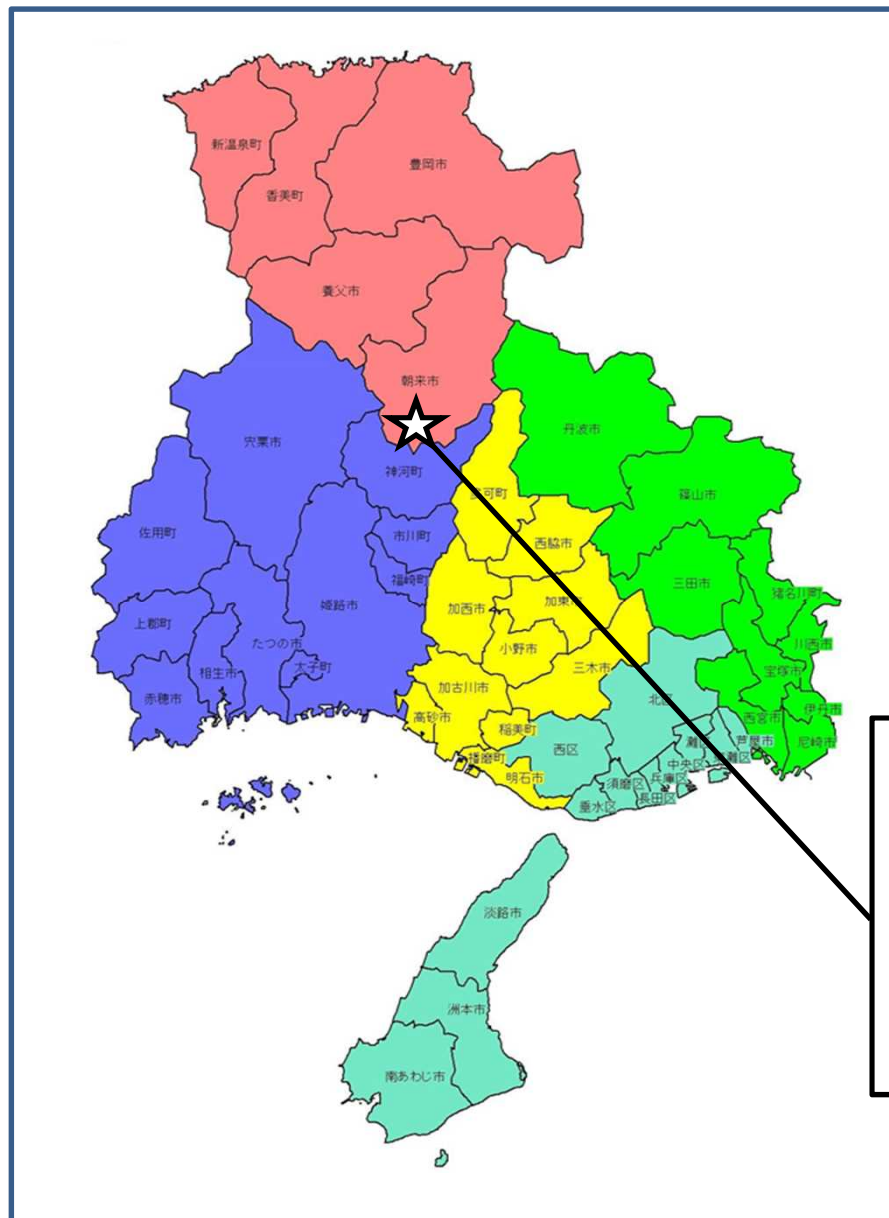
平成31年度

次期実施計画策定のための委員会
準備

魅力ある学校づくり
学校の規模と配置の適性化
入学者選抜制度・方法の改善

大きな混乱なく制度は定着し
つつある
全ての高校で遅滞なく魅力・
特色づくりを進めること

兵庫県立生野高等学校 概要



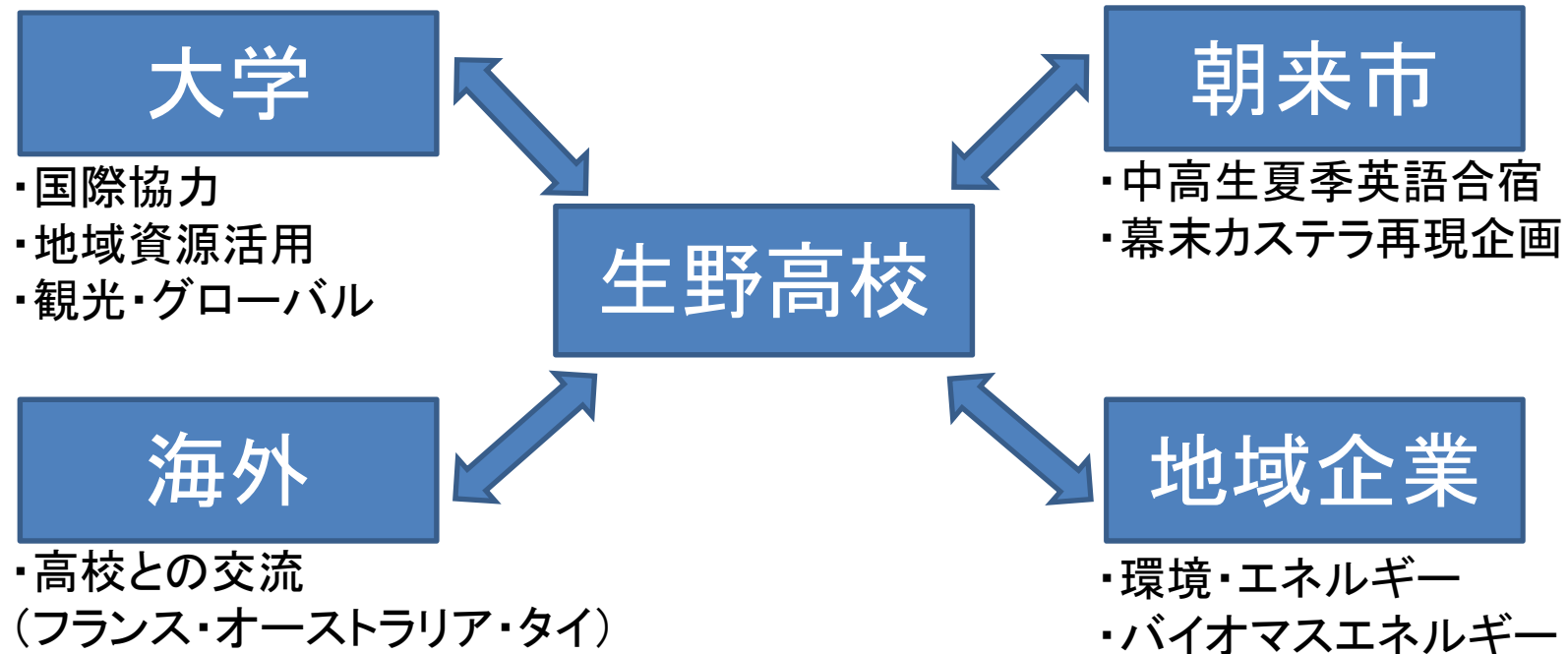
兵庫県立生野高等学校
生徒数:211名(1学年2クラス)
教員数:30名
創立106年目

年度	県立生野高校のこれまでの取組	
昭和61年度 (1986年)	理数コース設置 (学区内での募集)	
		第一次実施計画
平成15年度 (2003年)	理数コースを科学探究コースに改編 (学区内での募集)	
	生徒数の減少	第二次実施計画
平成26年度 (2014年)	英語教育強化地域拠点事業(朝来市)(～平成29年) →小・中学校、地域行政との連携	
平成27年度 (2015年)	SGHアソシエイト校(～平成30年) →地域の活性化と地域強化を担うグローバルリーダー育成	
平成30年度 (2018年)	科学探究コースを観光・グローバル類型へ改編 (全県募集)	
	ひょうごスーパーハイスクール指定校(県事業) →SGHアソシエイト指定校の取組の充実	
平成31年度 (2019年)	地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校 「未来型解決能力を持つ地域の担い手を育成する IKUNOモデルの開発」	

兵庫県立生野高等学校 SGHアソシエイト校としての取組

【研究テーマ】

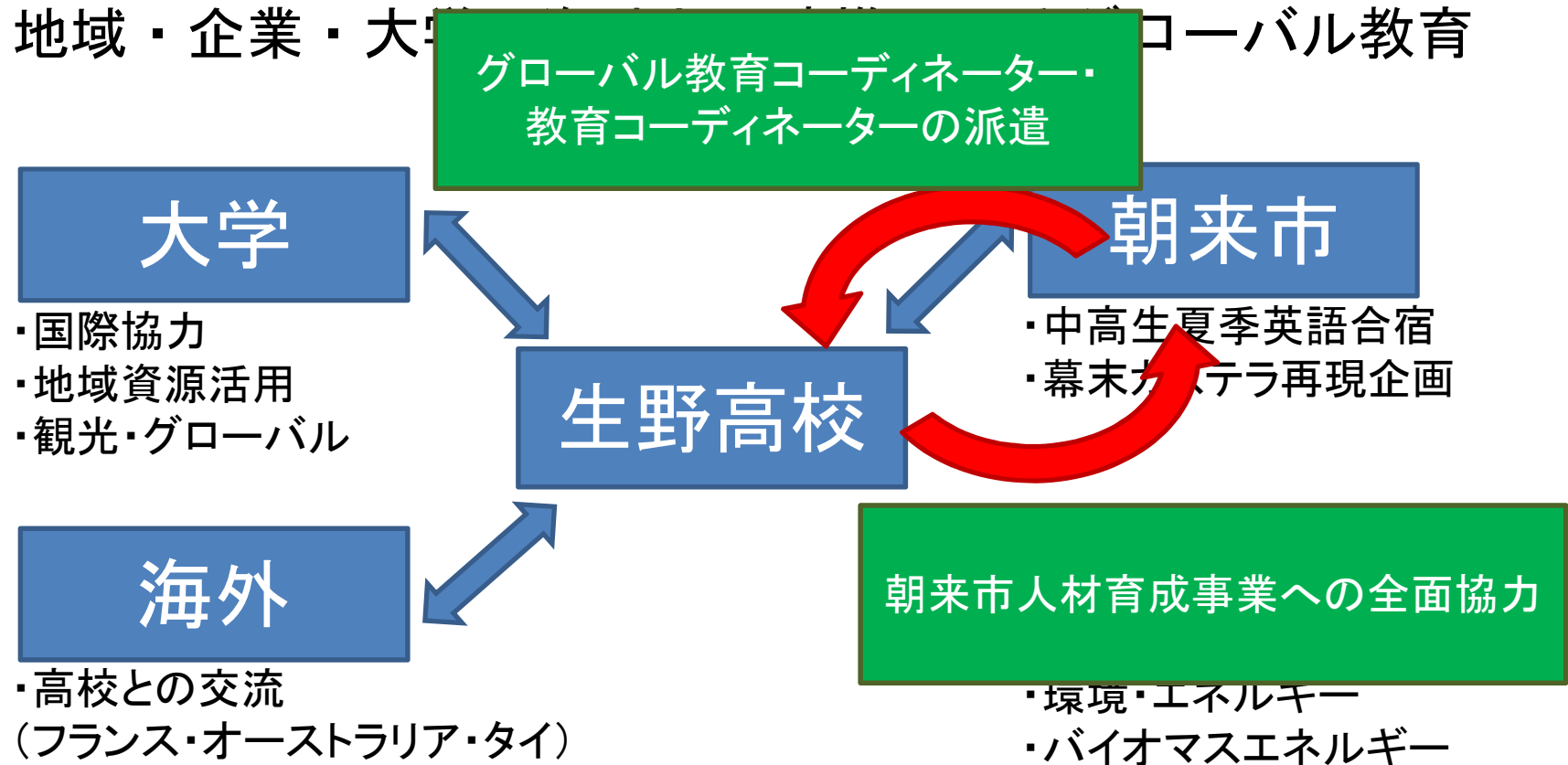
地域・企業・大学・海外との連携によるグローバル教育



兵庫県立生野高等学校 SGHアソシエイト校としての取組

【研究テーマ】

地域・企業・大学・海外との連携によるグローバル教育



あさごし
兵庫県朝来市生野町



江戸時代の坑内作業



生野銀山
(1973年閉山)



近代の採掘作業



坑内の人車



2017年



<http://www.ikuno-ginzan.co.jp/ginzan-boyz/>



地域との協働による高等学校教育改革推進事業【地域魅力化型】 研究開発構想名

鉦山町生野発 未来型課題解決能力を持つ地域の担い手を育成するIKUNOモデルの研究開発



鉦山町「生野」の歴史・文化が持つ魅力

- 1200年の歴史ある生野鉦山
- 「住民主体のまちづくり」に取り組む
- 「日本遺産」・「重要文化的景観」に認定
- オオサンショウウオ研究機関「日本ハンザキ研究所」
- 鉦山関連遺構を観光施設として活用
- 生野銀山を守る拠点とされる「竹田城跡」のブーム

本構想で取り組む生徒の育成目標

高齢化社会の課題をテクノロジーを活かし論理的に解決 **未来を知る**

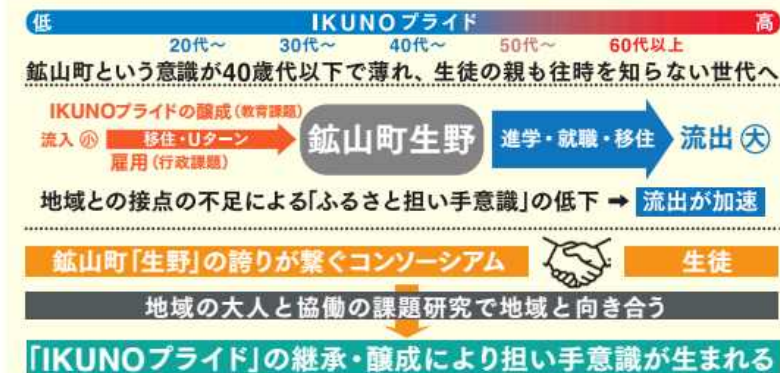
観光資源を活かしたまちづくりに主体的に参画 **現在を知る**

鉦山町としての意識「IKUNOプライド」の継承・醸成 **過去を知る**

IKUNOプライドとは

- 最先端技術を取入れ「日本の近代化」を支えたフロントランナーとしての意識
- 中山間地域において国内外の多様な文化が流入し栄えた町の記憶
- 鉦山閉山後も住民が団結したまちづくりに取り組んできたという気概

本構想でまちづくりに与える影響の仮説



コンソーシアム構成団体



IKUNOモデルによる本校の取組み

テクノロジーの限界・可能性を理解 論理的に取捨選択できる未来型課題解決を学ぶ

未来社会のまちづくり～シビックテクノロジー～

- 2050年までに予想される社会の変化を理解
- テクノロジーによる地域の課題解決を研究機関・企業から学ぶシビックテクノロジー…テクノロジーを活用した市民・社会課題の解決を目指す取り組み

Society 5.0で生き抜く「人間力」の育成

- 論理的思考力 × アイデア発案力 × 自己理解(目標設定) → オートメーション化のなかで「考え生み出す力」、現状を理解し実現可能な目標を設定する力

現状と課題を理解 他人との協働の中で主体的に物事を進められる力

地域の担い手(コンソーシアム)と現場で学ぶ協働「課題研究」

- コンソーシアム団体と地域を舞台に探究する共同課題研究
- 教育発表会で地域に向けプレゼンテーション

地域の歴史に触れ今を知る IKUNOプライドの継承・醸成

地域の担い手(コンソーシアム)からの口伝 地域文化に触れる

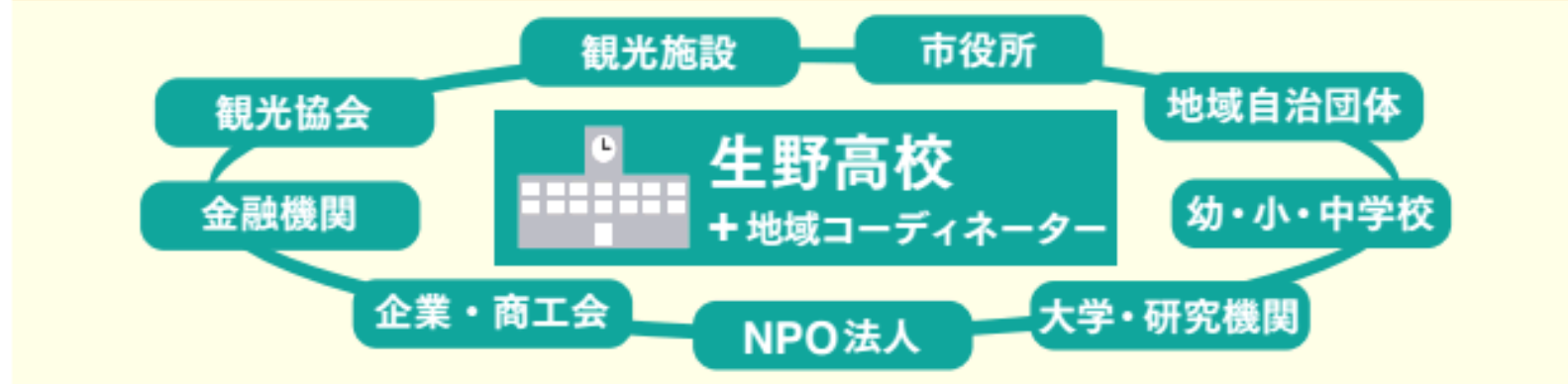
- 地域の専門家から学ぶ地域学(座学+フィールドワーク)
- 地域イベントへの参加など

IKUNOモデルで目指す生徒像

マンパワーの不足する地方においてテクノロジーの特性を理解・活用し論理的に地域課題の解決に取り組む能力を持つ。また主体的に地域との対話を行い、協働の中で探求に組みその結果、地域の担い手意識を持つ生徒。

未来型課題解決能力を持つ地域の担い手を育成

コンソーシアム構成団体

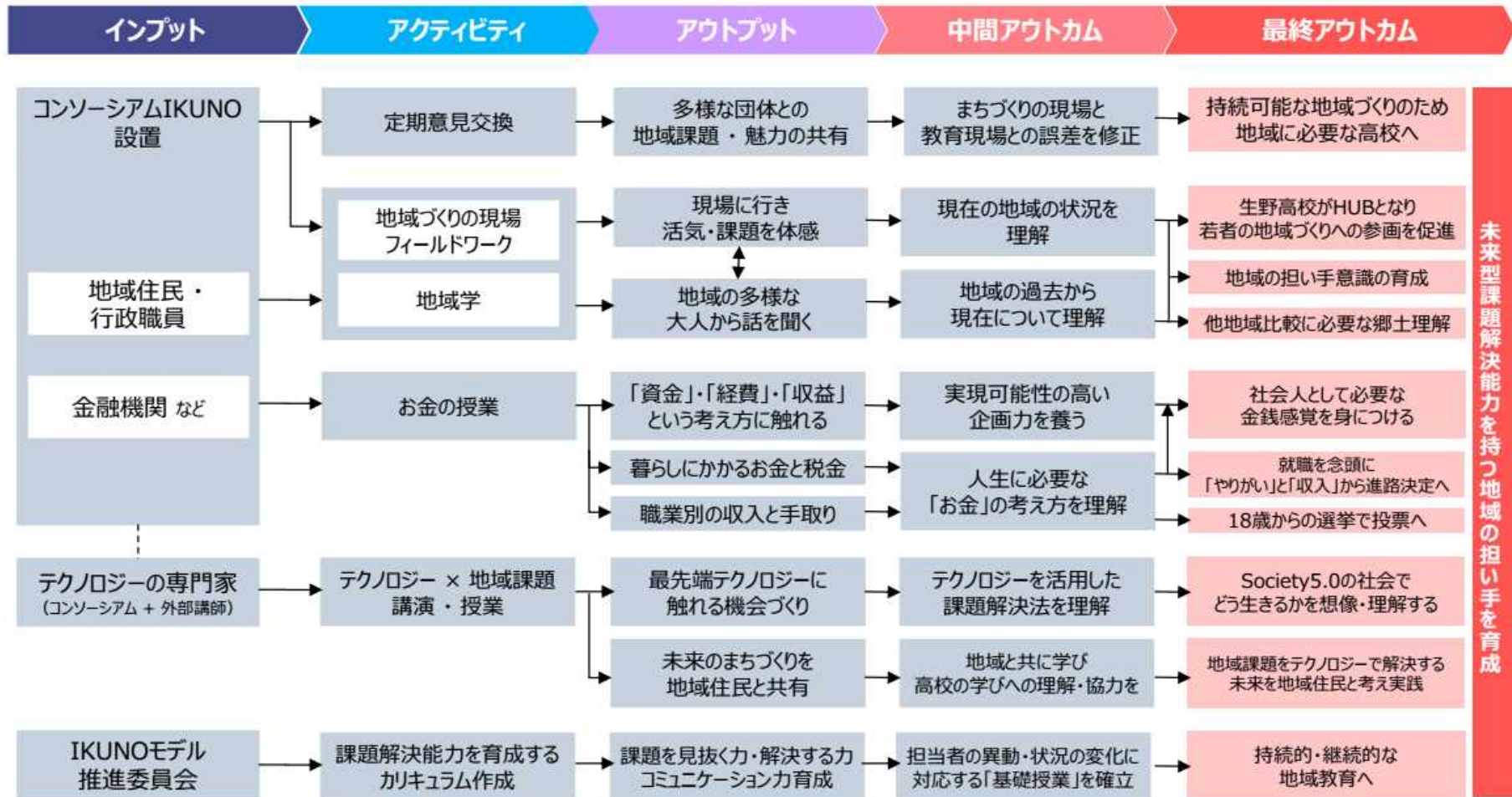


機関名	機関の代表者名	機関名	機関の代表者名
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也	いくの地域自治協議会	会長 日下部 誠
兵庫県立生野高等学校	校長 松中 泰幸	奥銀谷地域自治協議会	会長 柴田 一明
朝来市	市長 多次 勝昭	NPO 法人あさご創生プロジェクト	理事長 古屋敷 和也
福知山公立大学	学長 井口 和起	NPO 法人いくのライブミュージアム	事務局長 松本 忍
神戸山手大学	学長 齋藤 富雄	NPO 法人日本ハザキ研究所	理事長 岡田 純
(株)ZMP	代表取締役社長 谷口 恒	朝来市商工会	会長 西垣 隆
但陽信用金庫	理事長 桑田 純一郎	生野町温泉開発株式会社	代表取締役社長 奥藤 博司
全但バス株式会社	代表取締役社長 桐山 徹郎	生野町観光協会	会長 桐山 徹郎
株式会社シルバー生野	取締役社長 妹尾 高明	社会福祉法人いくの喜楽苑	施設長 松本 久司

【目標】

- ① 「過去を知る」鉾山町としての意識（IKUNOプライド）を持つ生徒の育成
地域人材を活用し、地域の歴史・文化・風習等を知り、鉾山町の継承者としての生徒の意識を高め、自らの文化・歴史に誇りを持ち、将来の生野を担う力を育成する。
- ② 「現在を知る」観光資源を活かした地域活性化に参画する生徒の育成
地域と協働した探究活動により、地域資源を活用した観光を企画・立案し実現することで地域の活性化に主体的に取り組む生徒を育成する。
- ③ 「未来を知る」未来型課題解決能力で人に優しいまちづくりに参画する生徒の育成
無人走行タクシーの提供を目指す企業との産学協働で中山間地域への導入等高齢者の生活向上策を探究することで、まちづくりに主体的に参画する生徒を育成する。

未来型課題解決能力を持つ地域の担い手を育成するIKUNOモデルの研究開発



未来型課題解決能力を持つ地域の担い手を育成